

梅之木通信

【縄文住居をつくる会】

第4号 2019.6.22 発行

縄文人生活もなかなかたいへんです

石斧づくり、フジツル採取と予想以上に根気のいる作業が続いています。その影響ばかりではありませんが、通信の配信もしばらく滞ってしまい申し訳ありません。縄文の人たちはこの様な単純作業を生活のためにしていたのかと思うと、なんでも簡単に手に入ってしまう現代の生活がなんだか申し訳なくさえ思えます。石斧の素材、形状は？ 縄にしたツルはなぜ根の部分を使った？ 縄文時代1万年の間に試行錯誤を繰り返しながら、彼らなりに効率的な手段や方法を編み出してきたのだと思いますが、今になってはそれらを知るすべがないことが残念でなりません。“必要に迫られて！”という事情があったにせよ、経験と知恵から自分たちの暮らしをより良いものにしようとした縄文人たちの暮らし方は、私たち現代の生活にもつながるものがあるかもしれません。

6月8日 石斧での伐採と皮むき

残念ながら我々の石斧はまだ一本も作成できていないので熊造園さんの石斧を借りての伐採体験。その後、伐採した材木の樹皮を皮剥き。

午前中の時間で2本伐採して皮むきまで完了。思いのほか早い？ やはり大変？



適度な太さの幹、枝振りの樹を探して伐採



伐採したばかりの樹皮は結構容易に剥けます

6月8日 佐藤千香さんを交えて設計打合せ

南棟梁作成の模型を基にして柱・垂木などの本数・長さを設計算出。



6月13日 資材置き場テント設置

石井さん提供のテントを設置して、資材置き場兼夏場の日陰を確保することができました。これで、苦勞して採取してきたフジヅルが雨でぬれる心配がなくなりましたが、風あたりの強い梅之木遺跡では、強風でテントが倒れてしまう事があるようです。今後とも随時注意して見守っていく必要があります。



6月20日 石斧の柄材料調達

佐野さんから地主さんの許可を頂いた森へ熊造園さんとカエデ探しの探検。最初はどれがカエデの木かすらも分からず苦勞しましたが、途中からは、「ここにも」と次々に発見。だんだん枝の張り具合から持ち手となる様子が想像できるようになってくると、「これは5年後だね」と余裕が出るほどに目が肥えてきました。



どの木がカエデだあ？
葉を探してもなかなか判りません



この柄は良さそうだ！



削った石刃を合わせてみると
完成イメージが膨らみます

【お知らせ】 ◆作業内容と日程について

石斧づくりやフジヅル採取と同じ作業が続きましたが、マンネリにならないよう世話人たちも作業スケジュールに苦勞しています。近々、建設木材の算出が出されてきますので、伐採作業が本格化してきます。また、新たに石斧の柄づくりにも挑戦していく予定にしていますので、まだまだ縄文人生活の楽しみが待っています。梅雨時期でもあり地域で天候が異なりますので、一概に作業の実施・中止の判断は難しく、各自の判断で参加していただければと思います。

《コラム：世話人のつぶやき》

「縄文式竪穴式住居作りも佳境に入ってきた」と言いたいところですが、まだまだほど遠く現在斧柄になるカエデの適材探しに汗を流してます。原始的作業も回数を重ねると、その時代の世界へと想像が飛び、彼らはどういう生活をしていたのか気になるところです。ところで、縄文人の顔の骨格は角形が多く、弥生人は面長の骨格が多かったそうです。さてあなたはどちらのタイプ？じっくりと鏡をご覧のほど。